

国語一 19 (第6学年) 課題を解決するために文章を利用し、資料を提示しながら説明する事例
【学習活動の概要】

1 単元名 情報を集めて効果的に説明しよう		
2 単元の目標 課題を解決するために、目的に応じて文章や資料を読んだり、それらを利用して作成した資料を提示しながら説明するスピーチをしたりすることができる。		
3 評価規準		
【国語への関心・意欲・態度】		
・課題を解決したいという願いをもち、情報を多面的に集めたり、それらを利用した資料の提示の仕方を工夫することで説明がより効果的になることを感じながら話したりしようとしている。		
【話す・聞く能力】		
・説明する事柄が明確に伝わるように、事実と感想、意見とを区別したり、必要な文言や数値などを引用したり、図解したりして発表原稿を作成している。		
【読む能力】		
・解説の文章の内容について自分の考えをもつために、必要な内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりして読んでいる。		
【言語についての知識・理解・技能】		
・話し言葉と書き言葉とでは、表現上の特質などに違いがあることに気付き、その特質に注意して話している。		
4 教材 環境保護について解説した教科書教材 関連図書資料		
5 主な学習活動		
(1) 単元の指導計画(全12時間(話す・聞く5, 読む7))		
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一 次 ①	○環境保護について資料を用いて説明するモデルスピーチの映像を視聴し、スピーチの内容と表現の仕方のよさについて感想を述べ合う。 ○身近でできる環境保護について、自分の決めた相手に、資料の使い方や説明の仕方を工夫して提案するというめあてをもつ。	○単元の導入前から、関連図書資料を学級に置いておき、少しずつ関心が高まるようにする。 ○児童自身にとっての相手を設定することで、より主体的に思考し判断できるようにする。
第二 次 ⑧	○環境保護について解説した教科書教材を、「身近でできる保護活動を提案する」という視点から読み、必要な情報や筆者の考えを押さえる。 ○自分の提案する内容に取り入れるために、筆者の提示する事実と意見との関係を押さえて読む。 ○自分の提案をより具体的にしたり根拠付けたりするために、関連する図書資料を探し、要旨をとらえたり、引用できる図表等の資料を選んだりする。 ○自分の考えを具体的に提案できるよう、意見とそれを支える事実を提示する資料との関係をはっきりさせてスピーチの構成を考える。 ○必要な数値や文言を引用したり、図解したりしながら提案するスピーチ原稿を作成する。 ○収録に向けて、二人組で互いに助言し合いながらリハーサルを行う。	○「提案するために必要な情報や論理構造を見つけて読む」「読んだことを生かして提案する」ことを複合的に位置付ける。 ○教材文や関連図書資料を読む段階から、自分の提案したいことを考えておくようにすることで、必要な情報を収集することができるようにする。 ○自分の考えを提案するために、どのように行動してほしいか、それはどのような理由によるものかを具体的に伝えるための資料を準備できるようにする。 ○提案の具体性を観点として助言し合う。
第三 次 ③	○一人一人の提案スピーチを録画する。 ○校内で伝えられる相手(下学年の児童など)を設定している児童が直接相手に向けて提案スピーチを行い、相手から感想をもらう。	○直接伝えるのが難しい相手を設定している児童については、録画を送って相手に視聴してもらう。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」と「C 読むこと」の指導事項「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」とを関連付けて指導を行うことを意図したものである。その際、「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例「ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。」と「C 読むこと」の言語活動例「イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」とを組み合わせた複合単元を構想し、指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

①課題意識を高める導入の工夫

単元全体を貫く言語活動として、「身近でできる環境保護について、自分の決めた相手に、資料の使い方や説明の仕方を工夫して提案する」ことを位置付けている。単元の導入では、この言語活動への見通しをもつことができるよう、次のような点を工夫している。

- ・導入に先立って、児童たちが手にとって読めるように、学級に関連図書を置いておく。このように言語環境を整えることによって、休み時間などにそれらの図書資料を読む姿が多く見られ、単元の導入時点で、関心を高めて学習に入ることができた。
- ・モデルスピーチの映像を視聴することで、スピーチの内容面と表現の仕方両方についてイメージをもち、どのように取り組んでいけばよいのかを考えられるようにしている。
- ・本単元では、スピーチする相手は自分が決めることとしている。前単元までに様々な相手に話したり書いたりしてきたことを生かして、自ら発信する相手を決めることで一層主体的な国語の能力を育成しようとするものである。

②学習過程を明確にする「読むこと」と「話すこと・聞くこと」を複合した単元構想

本単元では、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」とを複合させた単元を構想している。その際、単に二つの学習をつなげて行うだけではなく、それぞれの指導のねらいを一層効果的に実現できるよう工夫している。

☆「読むこと」の指導の一層の充実



本単元で取り上げる「C 読むこと」の指導事項ウの指導では、あくまでも「目的に応じて」読むことが求められる。目的を明確にして読むことは、自分の考えを明確にするだけでなく、内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえて読んだりすることを一層確かなものにするのである。

「話すこと・聞くこと」の指導と組み合わせることによって、児童自身の読む目的を明確にすることができ、指導の効果をより高いものにしていく。

☆「話すこと・聞くこと」の指導の一層の充実

一方、「読むこと」と組み合わせることによって、「話すこと・聞くこと」の指導においても、教材文や関連図書から情報を得ることで、自分が提案したい考えをより具体化したり、適切な資料を選んで提示したりできるようになっていく。

③スピーチ原稿作成のための工夫

スピーチ原稿の作成に当たっては、書き言葉の文章表現とは目的が異なることから、例えば、以下のような点に留意することが大切である。

- ・話す言葉を全て書く場合や、全体としては柱立てを記述し、必要な部分だけ具体的に書く場合など、目的に応じて形式を使い分ける必要がある。
- ・音声化することが前提なので、読み上げやすいよう、行数を少なめにしたり、文字を大きく大きく書いたり、読み手の息継ぎに合わせて行を変えたりするなどの工夫をする。